

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	理念の実践に向けて、今後も努力していきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の中でも地域の高齢者の方についての相談があり助言をしたり、地域包括支援センターからの依頼があり、地域の中で講話等行ったりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	事前にビデオを見るなどして外部評価を理解し、また改善できるよう努力している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方の意見等を参考にしながら、地域の行事等にも参加している。	○	運営推進会議の取り組みについては、まだ充分とは言えないが、今後はもっと運営推進会議をサービス向上に活かせるよう努力し、地域の方にも理解して頂けるようにしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村が主催する研修会等に積極的に参加している。また、当法人がグループホーム連絡協議会の事務局でもある為、市と協力してサービス向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会を開催し、個々の必要性に応じて関係者と話し合うようにしている。成年後見制度を利用されている方もおり、ご家族の相談等にも応じている。	○	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度については、理解不十分なところもあり、職員皆でさらに学習していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	更衣時や入浴時など入居者の身体チェックなどを行ったり、接遇の勉強会を行い、言葉使いにも気をつけるようにしている。	○	研修会等に参加したり、高齢者虐待防止関連法についても、もっと理解を深めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用案内時に説明文書や契約書を見て頂きながら説明を行っている。その際、不安に思っていることや心配なことを聞き、不安や心配事をとり除くよう努めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、また月に1回座談会を設け入居者の意見を聞いたり、不満等はなぜメモにあげ、会議等で検討したり、ご家族からも話を伺ったりしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月便りを作成し、暮らしぶりや行事予定等報告している。また、面会時には、個々の健康状態はもちろん、金銭管理表をみせ説明し、確認のサインを頂いている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置。意見箱の内容については、スタッフ全員に周知、会議にて検討行い、ご家族へ返事をするようにしている。また、月に1回、介護相談員の方にも来て頂いている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議を行い、職員の積極的な意見を聞く場を作っている。また面談も行ったりしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者や家族の変化、要望などスタッフ全員に周知し、必要に応じて検討している。現在、早出者の出勤時間も調整しており、入居者の状態に応じて、柔軟に対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	必要に応じて職員とも面談を行い職員の考えや要望等聞きながら、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、状況に応じて入居者へのダメージを防ぐ配慮も行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育訓練の計画を立て、新人教育や定期的な研修、勉強会等を行っている。また、外部への研修にも積極的に参加できるよう、勤務の調整等も行っている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等を通じ、他の施設の方と情報交換を行ったり、訪問したりしている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	毎月、職員の慰労会として、スポーツやレクリエーションの場を設けながら、ストレス解消に努めている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	定期的に面談等行い、職員の希望や要望等聞き入れ、希望に沿うよう努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居にあたり、ご家族にセンター方式シートを記入して頂き、本人の不安や望む暮らしなどについて理解しようとしている。認知症の状況等により、本人から聴くことが難しい場合もあるが、受けとめる努力はしている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居にあたり、ご家族にセンター方式シートを記入して頂き、ご家族の要望や願い等も聴くようにしている。また、ケアプランをたてる際にもご家族の要望・思いを反映できるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急会議を開き検討したり、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に見学に来て頂き、アセスメントをしっかり行い、リスクについての話等も行った上で利用して頂いている。また、どのようにすれば、早く馴染めるのかなど、ご家族との情報交換等も行いながら対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に畑作業や食事の準備、漬物漬けなどを行うことで、入居者の方より教えて頂くことも多く、冗談を言いあって声を出して笑ったりと良い関係が築けている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	病院受診に付き添って頂いたり、日用品の購入など必要なことはご家族に協力を要請し、一緒に入居者を支援している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人とご家族とのこれまでの関係を理解し、それぞれのご家族に応じた支援をしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室に本人が昔から使っていた家具を置いたり、若い頃の写真や家族の写真を飾るなどご家族に協力して頂きながら行っている。また、面会等は本人、家族のプライバシーを考慮しながら、受け入れている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の間に職員が入り取り持つことで、入居者同士のコミュニケーションが円滑になり、より良い関係が築けるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も予定されていた行事に参加したいとの希望があり、行事の案内を行い、参加して頂いた。	○	個々の状況に応じて契約終了後も継続的な関わりを続けていく準備はある。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式シート等活用し、アセスメントを行い本人の希望に沿うようにしている。また、日々の生活の様子などを通じてニーズの把握を行うように努めている。	○	様々なニーズを発掘していけるような日々の記録の仕方や入居者の方との過ごし方など、検討していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式シートを活用したり、入居者やご家族に聞き取りを行い、入居者情報シートを新たに作成し、バックグラウンド等が具体的に把握できるよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式シートを活用し、それらの情報がケアプランの中に取り入れられるよう努めている。また、その日の気分など日々の状態等も含め、把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	課題に応じて他機関にアドバイスを受けたり、家族を交えてのカンファレンスを開き、ケアプランを作成している。	○	介護計画については、いろいろと検討していかなければならない課題もあり、今後も会議等で取り上げていこうと考えている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にスタッフ全員でモニタリングを行ったり、状態に変化が生じた場合など、介護計画の見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別記録に記入している。変化・見直しのある時は週1回の会議にて検討を行い、またモニタリングやサービス担当者会議等でも情報の共有を行っている。	○	個別の記録用紙や記入の仕方など、必要に応じて、その都度、その方に合ったものを検討していこうと考えている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じ、病院受診に付き添うなど柔軟な支援を行っている。また、併設のグループホームや認知症専用のデイサービス利用者とも行事等を通じ、交流を図っている。		
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	家族会や行事の場に民生委員・ボランティアを招待している。また警察・消防機関と連携を図り、緊急時に備えている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族の意向などにより、必要に応じ行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議には、地域包括支援センターの職員にも参加して頂いているが、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について本人の意向などがまだない為、特に行っていない。	○	本人や家族の要望に応じ、地域包括支援センターと協働する準備はある。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは家族を通じて連携を図っており、グループホームでの状況報告は常に行っている。また、かかりつけ医から得られた情報は医療連携体制をとっている医院へ提供し常に適切な対応をして頂けるよう配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	日々の様子を観察し、主治医に報告しながら、内服薬の調整を行ったり、ケアに関する相談等も行っている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	定期的に医療連携体制をとっている看護師が来所し、入居者の日々の状態把握を行ったり、健康や医療に関する指導や助言をしてもらっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院関係者とも連携を行い、また、必要に応じて入居者のバックグラウンドや現在のADLの情報等を提供している。退院時も入院時に受けた治療や生活の様子など情報収集にも努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合に対する考え方等も契約書等に記載しており、状態に変化が生じた場合には、その都度、ご家族と相談しながら治療や終末期に対する考え方等伺い、スタッフ全員に周知するようにしている。	○	個々の状態に合わせて、終末期についての意向、ニーズを確認しながら、状況に応じて面談等を行っている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居者、ご家族と充分相談していきながら、入居者、ご家族の意向に沿えるサービスが提供できるかどうか見極めていく準備はある。また、緊急時の対応マニュアルも作成している。	○	重度化や終末期に向けてのチーム支援のあり方や心構え等の準備を行っていききたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居者のADLやバックグラウンド等の情報シートを別の居所に渡すなどし、情報交換を行っている。。また必要に応じてケア関係者間で情報交換の場を設けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者1人1人の自尊心を大切にしていけるようなケアを目指している。また、接遇勉強会などを行い、言葉使いにも気をつけるようにしている。	○	入居者の方、1人1人のプライバシーを守れるよう、常に意識を持っていたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の意見を尊重し、希望があればその希望に沿えるよう努めている。また何でも気軽に話せるような雰囲気作りを行っている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	コミュニケーションの中から本人の希望を汲み取り、なるべく本人の希望に沿えるよう努めている。また非言語コミュニケーションでの本人の気持ちを察知し、支援できるよう努めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望される方は月1回のカットの日に髪を切ったり、また外出・外泊先で行かれる方もおられる。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者とスタッフが一緒に食材切込みや盛りつけ、味付けや味見など入居者の好みに応じたり、配膳・下膳や食器洗いなどの作業を行っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日常的ではないが、スタッフと買物に行き好きなお菓子など買われる。行事の時などお酒を出すようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	自分で排泄出来る方は、なるべく自力で行えるようにしている。部分的な介助を要する方もいれば、トイレ誘導など排泄表を活用し行っている方もおられ、1人1人の状態に合わせたケアを行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	全て入居者の希望に沿えるわけでないが、入浴拒否の方は無理強いせず、逆に毎日入りたい方はなるべく入っていただいている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者1人1人のペースに任せ、快適かどうか本人に確認できる場合は確認しながら行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	1人1人のバックグラウンドを把握し、その人に合った役割作りを行っている。また外出したいとの要望が多い為、買物や散歩など外出する機会作りに努めている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物や外出する際、本人希望あれば好きなものを本人のお金で購入して頂いている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出要望あれば、散歩や買物など、その日の天候や気温等考慮しながら戸外に出掛ける機会を作っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	座談会で上がった行きたい場所など検討し、月の行事などにくみいれ出かけられるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時において支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の事情なども考慮した上で、可能な限り面会は受け入れている。面会時は必ずお茶を出し、くつろいで頂けるよう気を配っている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「禁止の対象となる具体的な行為」については理解不十分な面もあるが、身体拘束についての意識を持ち、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」についての理解を深めたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関・裏口・勝手口の施錠は行っていない。(日中)		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中・夜間ともに見守り、所在確認等行っている。夜間帯は2時間おきの巡視を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の状況に応じて、行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	防災訓練の実施。入居者の所在を確認したり、歩行時の見守り・足元の安全確認を行い転倒防止に努めたり、誤嚥や誤薬がないよう手順書を作成している。	○	今後もリスクマネジメントについて検討していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	AEDの勉強会実施。急変時の緊急連絡先の確保。また手順書を作成し急変時に備えている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練など行っている。また消防機関等と連携を図っている。	○	地域の人々の協力も得られるよう、今後さらに働きかけを行っていく必要がある。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	面会を利用してご家族と話をしたり、必要に応じて主治医からご家族に説明してもらったりしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	本人の訴えや身体の異常等発見した場合など、スタッフ全員が周知するように申し送りノートや日誌等に記入したり、速やかに病院に連絡し受診等行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情に目を通し理解するようにしている。服薬介助等も行い、薬の内容や量が変わったりした場合など、状態の観察を行い、医師やご家族に報告するようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	体操を行ったり、水分摂取量に気をつけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの声掛けを行い促している。また介助が必要な方は、その都度対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による調理のアドバイスや、1日を通しての食事のバランスを考えている。またお茶の時間を設けたり、本人希望や状況に応じ水分摂取していただいている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	玄関先に消毒液・マスクを設置し、外部からの感染予防に努めている。また外出後手洗い・うがいを促し行っている。	○	必要に応じて、勉強会を行っていく予定である。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	清掃チェック表を用いて、日中・夜間ともに清潔に保てるよう取り組んでいる。生ものは出来るだけ避け、火を通したものを提供している。定期的に冷蔵庫の掃除も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには、季節ごとにコスモスや向日葵などの花々を植え、楽しめる雰囲気になっている。また玄関先には、季節感を味わえるようなレイアウトを心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除の徹底や、月ごと曜日ごとに掃除を行う場所を決め実施している。また、季節の花をホール・居室に飾るなどし季節感が味わえるよう心がけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人ひとりのペースに合わせての生活を送っていただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使っていた馴染みの物や家具を持ってきただいたり、以前住んでいた環境に近づけるよう工夫したりと馴染みのある空間作りに努めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	湿気が高いときは、換気扇を回したり除湿を行っている。また冷暖房の活用をし温度調整行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	十分な調理スペースを確保したり、手すりを設置したり、段差等も無いため自立した生活が送れている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	センター方式シートのできること・できないこと、わかること・わからないことを記入しながらケアに活かすようにしている。トイレや居室の場所がわかるように明示したり、失敗してもスタッフが上手にフォローするように心がけている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	プランターを置いたり、畑に野菜を植えている。入居者の方は水をあげたり、草をとったりと自由に活動されている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・個人情報の収集に取り組み、その人らしい生活を送って頂けるよう努力している。(入居者の状態により記録用紙も変えている。)定期的に会議を行い、入居者の状態の変化に応じ、ケアの方法を検討したり、スタッフ間で意見交換を行ったり、常に自分たちのケアを見直しながら業務にあたっている。
- ・座談会等で入居者の意向を取り入れたり、また毎月行事を企画し、季節感を味わって頂いたり、リフレッシュして頂けるよう努力している。畑もあり、季節の野菜も獲れるし、畑作業が好きな方は、スタッフの見守りのもと自由に活動されている。
- ・併設の医療機関との連携もとれており、リハビリや介護予防教室へ参加したり、緊急時の対応など医療との関わりもできている。
- ・併設のグループホーム一喜一喜、認知症専用デイサービス楽楽の利用者との交流もあり、行事等一緒に行ったりしている。
- ・内部研修や外部研修に参加し、職員の質の向上を目指している。